新連載

人間を磨く「明日死ぬ」という修行

多摩大学大学院・名誉教授　田坂塾・塾長
田坂広志

かつて、経営者として大成するには「三つの体験」が求められると言われた。では、その三つの体験とは何か。その体験を通じて身につく「三つの力」とは何か。その体験を凝縮する日々の修行は、誰にでもできる修行。しかし、実は、難しい修行である。

大成する経営者「三つの体験」

かつて、経営の世界において語られた、一つの格言がある。

「経営者として大成するには、三つの体験の、いずれかを持たねばならぬ。戦争か、大病か、投獄か」

ここで投獄とは、文学者・小林多喜二が思想犯として逮捕され、拷問で獄死するような時代の投獄のことであり、この三つの体験は、いずれも「生死の体験」を意味している。

実際、戦後の優れた経営者を見るならば、例えば、伊藤忠商事元会長の瀬島龍三氏は、戦争とシベリア抑留一一年を体験し、京セラ・KDDI創業者の稲盛和夫氏は、若き日に、当時は死病とも呼ばれた結核を患い、住友銀行元頭取の小松康氏は、戦時中に水兵として乗船していた巡洋艦那智が撃沈され、九死に一生を得た体験を持っている。

では、なぜ、経営者として大成するには、「生死の体験」を持たねばならぬのか。

それは、「生死の体験」を通じて、人間は、「死」というものを直視し、深い「死生観」を掴むからであり、深い「死生観」を掴むとき、我々に、想像を超えた力が与えられるからである。

では、「死生観」を掴むとは、いかなることか。

それは、人生における三つの真実を直視することである。

「人は、必ず死ぬ」

「人生は、一度しかない」

「人生は、いつ終わるか分からない」

その三つの真実を、日々の生活の中にあって、目を背けることなく見つめることである。

では、我々が、日々、この三つの真実を直視するとき、何が起こるのか。

たさか・ひろし●1951年生まれ。東京大学大学院修了。工学博士。日米のシンクタンクを経て、現在、多摩大学大学院名誉教授。全国から6100名の経営者が集う田坂塾を主宰。元内閣官房参与。著書は『人間を磨く』『運気を磨く』など90冊余

死生観が与える「三つの力」

その直視によって、我々に、三つの力が与えられる。

第一に、人生の「逆境力」が高まる。

すなわち、「人は、必ず死ぬ」という真実を直視するならば、人生や経営における最悪の逆境に直面しても、「命あるだけ、有り難い！」という絶対肯定の姿勢で処することができる。

実際、厳しい倒産の危機において、経営幹部に対し、肚を据え「命取られるわけじゃない！」と語った経営者の姿を、筆者は間近で見たことがある。この方も、極限の戦地から生還した人物であった。

そして、この絶対肯定の姿勢で、危機や逆境を見つめるならば、不運や不幸と見える出来事にも、必ず深い意味があることに気づき、そこから、大切な何かを掴むことができる。

実は、その意味をどう解釈するか、その「解釈力」こそが、真の「逆境力」に他ならない。

第二に、人生における「使命感」が定まる。

すなわち、「人生は、一度しかない」という真実を直視するならば、「その一度限りの命を、何に使うか」という意味での「使命感」が心に芽生え、それが、世のため人のために何かを為そうとの「志」へと昇華していく。

そして、一人の人間が、深い使命感と志を抱くならば、不思議なほど、その思いに共感する人々が周りに集まり、その志を実現するために力を貸してくれる。

実際、「天の配剤」と呼ばれるものは、使命感や志を抱く人間にこそ与えられる。

第三に、人生の「時間密度」が高まる。

人間は、「あなたの命は、あと三〇日」と言われたならば、一日一日を慈しむようにして大切に使う。しかし、「あなたの命は、あと三〇年」と言われたならば、「まだ三〇年もあるか」と思い、安逸な時間の使い方をしてしまう。だが、「人生は、いつ終わるか分からない」という真実を直視するならば、「与えられたこの一日を生き切る」という姿勢が身につき、その覚悟を持たない人間に比べ、時間の密度が圧倒的に高まっていく。

しかし、こう述べてくるならば、深い「死生観」を掴むことは、一人の経営者として大成するためだけでなく、一人の人間として成長し、成熟し、悔いの無い人生を送るために大切なことであることに気がつく。

では、この深い「死生観」を掴むためには、戦争や大病や投獄の体験が不可欠なのか。

そうではない。

我々に問われるのは、「人は、必ず死ぬ」「人生は、一度しかない」「人生は、いつ終わるか分からない」という三つの真実を、平時においても、日々、直視できるか否かである。

仏教者の紀野一義師は、若き日に、「明日死ぬ、明日死ぬ、明日、自分は死ぬ」と思い定め、その日一日を精一杯に生き切るという修行をした。

もし、我々が、本気で、この修行をするならば、日々の風景が変わる。そして、不思議なほど、生命力が横溢し、直観が鋭くなり、運気を引き寄せる。それゆえ、人生が大きく拓けていく。

しかし、我々の弛緩した精神は、そのことを頭で理解するだけで、決して行じようとはしない。

されば、この修行を愚直に行ずるか否か。

そこに、我々の人生の真の分れ道がある。